

定例フォーラムの計画

	開催時期	テーマ
第13回	5月15日	・基調講演 「迫る気候変動の危機に向けた地域の取り組みのこれから」 平田 仁子氏（Climate Integrate代表理事）
第14回	7月	・基調講演 「EV普及に係る最新動向」 ・パネルディスカッション 会員の自動車会社、充電器販売・設置会社、自治体、講師等に登壇いただき、 取組紹介や課題、展開戦略について議論する。
第15回	9月	・基調講演 「再エネ導入拡大に向けた技術動向」 ・パネルディスカッション 会員で再エネに係るサービスを提供する事業者、自治体、講師等に登壇いただき、 取組紹介や課題、展開戦略について議論する。
第16回	11月	・基調講演 「地域エネルギー事業会社の動向と求められる役割」 ・パネルディスカッション 松本平の地域エネルギー事業会社、講師等に登壇いただき、現在の取組状況及び 今後の展開について議論する。
第17回	2月	・基調講演 「脱炭素経営を如何に実現していくか」 脱炭素経営を促進するにあたり、ソフト面（地域内連携、社内合意の取り方、若手 職員の参画等）にフォーカスを当てた内容とする。 ・若手企画の活動報告会

- ・各回フリースタイルを設け、会員同士の交流促進を図る。
- ・定例フォーラムで動向把握、課題の洗い出しを行い、その後期間を空けずに同じ分野の課題別部会を開催することで、課題の深掘り（分類分け）を行い、課題別部会につながる内容とする。

課題別部会の計画

「座」マークが付いているものは、基本的に各分野の定例フォーラムを開催した後（概ね1か月以内）に実施することで連動させます。

「視」マークが付いているものは、受入先と調整でき次第開催いたします。

種類	テーマ
再エネ 第15回定F 「再エネ導入拡大に向けた技術動向」	太陽光発電設備に関する最新の技術動向 (座)
	P P Aによる太陽光発電設備の導入手法検討会 (座)
	ソーラーカーポートを活用した電力の施設間融通、B C P向上事例の視察 (視)
	地産地消エネルギーによる資源循環モデルの実証運用の視察 (視)
省エネ	既存建築の改修による省エネルギー化取組事例の視察 (視)
	Z E B建築の視察 (視)
	工場における省エネワークショップ (座 視)
モビリティ 第14回定F 「E V普及に係る最新動向」	松本平のE V普及戦略検討会 (視) → 松本平のE V普及に関心がある会員が集い、E V化の課題及び現状の整理を行ったうえで、必要に応じてE V導入コストシミュレーション、先進的に取り組む団体を招いた勉強会等、参加する会員のニーズに沿った活動を複数回実施し、1年間かけて松本平のE V普及戦略及び充電インフラの充実化戦略検討を行う。 (座)

- ・ 会員内で先進事例があれば、積極的に視察を行う。
- ・ 抱えている課題の解決に向けて技術及び先進事例を学び、会員同士で議論する。

若手職員向け企画の計画

令和7年度の企画趣旨

- ・ 若手職員が具体的なアクションを起こすための動機付け、知識習得の機会とする。
- ・ 基礎的な知識を習得できる内容をプログラムに含める。
- ・ 対話の時間を大切にする。
- ・ 昨年度希望が多かった視察を実施する。
- ・ 年間通して、参加者のネットワークを構築し、学びと議論を深めるなかで、何らかの成果物を作成する。

企画案

NO	日程	内容	趣旨・目的
1	6月	『脱炭素社会の実現に向けて何が必要か考えよう』 ・カードゲーム「2050カーボンニュートラル」	気候変動の現状を学び、様々な主体が関わり合って、脱炭素社会の目指すことの重要性を体験するカードゲームを実施し、基礎的な知識や考え方の習得の機会とする。
2	8月	『CNの分野で活躍する若手職員の声を聴こう』	現場で働く若手職員からお話をいただき、後半は参加者と講演者でグループワークを行うなかで、この分野の可能性や面白さを参加者が体感する機会とする。
3	10月	視察	脱炭素先行地域、EV自動運転バス、GHG排出量見える化等
4	12月	『事業の組み立て方を学ぼう』	事業の組み立てにおける、社内合意の取り方や若手が挑戦する際に必要なマインドを学ぶ機会とする。
5	2月	『学んだこと・感じたことを発信しよう』 ・活動報告会	定例フォーラムと同時開催し、MZCC会員向けに若手職員が報告を行い、若者が活躍できる環境づくりにつながる機会とする。